

科学技術・学術審議会 情報委員会（第 10 回）における主な意見

1. リモート環境・ネットワーク基盤の整備・高度化について

- ・ネットワーク基盤を発展させたデータ駆動型の基盤について、国家的に整備を進めていくべきではないか。
- ・情報分野が全ての学術分野の基盤として深く関連している状況を踏まえ、現在は大学共同利用機関法人の一研究所として位置づけられている国立情報学研究所（NII）の体制強化が急務である。
- ・測定に係るソフトウェアについて、現在は外国製のものを使用しているが、測定の自動化が広範囲に行われるようになるのであれば、国産品の状況を調査し、その情報を共有することが重要ではないか。
- ・今回医療関連データの国際連携については NII が取りまとめを行っているようだが、データ活用のための取りまとめや発信の役割の担い手について、恒常的な体制の整備が必要ではないか。

2. 研究のデジタルトランスフォーメーション（DX）について

- ・学術資料のデジタル化と共に、DX に向けた図書館のあるべき姿の方向性を提言の中で明確にするべきである。

3. ポストコロナ時代に向けた情報科学技術の展開について

- ・これまでの Society5.0 の在り方について、ポストコロナの文脈の中で位置づけ、それを受けて情報科学技術分野のあるべき姿を示すべきではないか。
- ・教育分野において、教育データを活用した教育の在り方自体の見直しも含め、情報科学技術の活用を推進していくべきである。

4. データの利活用について

- ・学術情報について、公開するだけでなく、一般市民や産業界、国外研究者も含め、広く世間に発信していく取組が重要である。
- ・データの利活用を進めるに当たり、著作権に関する問題や個人情報の管理の問題等を考慮した制度設計が求められる。
- ・データのクオリティ・コントロールや再現性についても確保していく必要がある。